

Coco Pallet



企業概要

会社名	Coco Pallet
設立	2012
事業分野	エコパレット製造
本社	アムステルダム（オランダ）
社員数	50



事例のポイント

大学発の技術を、途上国における社会問題解決のために活用し、それを事業として成立させた事例である。ポイントとして、①大学に埋もれていた技術を、現地の課題とマッチングさせて事業化したこと、②エコ製品であるからといって割高にせず、あくまで安価で高品質な製品開発にこだわる姿勢、③農家への雇用創出や廃棄後の堆肥としての利用など「サプライチェーンの全ての関与者を満足させるビジネスモデル構築」、が挙げられる。

企業プロフィール

2012年に創業された同社は、フィリピンにおいて、ヤシ殻を資源として再利用し、強度の高いパレット（物流において運搬時に用いる荷物台）を製造・販売している。

同社のパレットは高い評価を受け、フィリピンの工場は年間500万個のパレットを生産する能力があり、現在は生産能力を4倍に引き上げるため工場増設中である。長期的には年間の生産個数を4億個に引き上げ、アジア全域で事業展開することをビジョンとし、2022年までに5つの工場建設を計画している。

背景にある社会課題

フィリピンの主要な農産物の一つはココナッツである。年間およそ1500万トンが輸出用に生産され、同国第3位の農作物生産高を占める。

その用途のほとんどは加工であり、果肉や果汁を除いた後に残る、「ヤシ殻」は、廃棄物として、埋め立てや焼却により処分されている。

ココナッツ農家の所得は低く、国際的なココナッツ価格の影響を強く受けるため、不安定でもある。

このような中、大量に廃棄されている「ヤシ殻」の用途を開発し、資源の保護と、ココナッツ農家の所得向上につなげることは重要な課題であった。

ビジネスモデルと製品の特徴

ココナッツ農家から、廃棄されていたヤシ殻を適正価格で買取り、ココパレット（ヤシ殻のみを原料とする自然素材100%のパレット）に加工して、販売している。

ココパレットは硬度、防虫性能、防火性能、耐湿性能、運搬性などにおいて既存の木製パレットと同等以上の性能を誇る一方、安価で、廃棄時には堆肥としてそのまま利用できるなどのメリットがある。

SDG ビジネスへのアプローチ

① 産学連携による「大学の技術」の活用

創業者ミシェル・フォス氏は連続起業家（シリアル・アントレプレナー）であり、当初は、フィリピンで竹を用いた自然素材の事業化を目指していた。事業化の経験自体は豊富だったものの、技術面では手探りで進めなければならない場面も多く、開発は難航した。

母国オランダのワーゲニンゲン大学の植物学者、ジャン・ヴァン・ダム教授を訪ねて助言を求めたところ、教授が開発していた別の技術を活用することを助言された。2004年に論文発表されていた「ヤシ殻を頑強な板に成形する方法」である。教授の話に耳を傾ける中で、フォス氏は、ココナッツ農家を取り巻く課題の深刻さと、同技術によりそれが解決できる可能性を強く感じ、ココパレットを創業することを決めた。

② 「循環型経済」の視点での製品開発

一般的なパレットは、木製である。森林を伐採して作られ、使用後は廃棄されている。いわば「消費型経済」の典型的な例である。「これからは物流も『循環型経済』へと変わっていかねばならない」と、フォス氏は語る。

ココパレットでは、廃棄されていた「ヤシ殻」を資源として見直し、加工することでパレットを製造しているが、「循環型」であるためには、その製品の始まりだけではなく終わりも、自然に還元する必要がある。そのためココパレットは、化学製品は一切使わずに製造することを方針としており、使用後には、そのまま農場で堆肥として用いることができる。

③ 「高いけれどエコ」ではなく、「エコだから安い」の実現

ココパレットは「エコ商品」ではあるが、だから割高であるという思い込みを変えることに注力している。「持続可能な製品を販売する上でも、価格競争力は重要な後押しになる」とフォス氏は語る。廃棄されていたヤシ殻を資源として用いるため、原材料は（農家に収入を付与しつつ）安価に仕入れることができる。製造プロセスでもできる限り余分なものを省き、また規模の拡大により平均コストを抑えることで、製品は通常のパレットと比べて競争力のある価格で市場に出している。

④ 「サプライチェーン上の全ての関与者が満足する」状態の実現

関与者が Win/Win になるようにビジネスプロセスを組み立てている。「そのためにはサプライチェーンの関与者を深く理解しなければならない」とフォス氏は語る。

これまで廃棄コストがかかっていたものが収入に変わるため、ココナッツ農家にとってはメリットとなる。製品としては頑強であり、割安でもあるため、運送業者からも好評である。そして使用後は堆肥にできるため、処分コストもかからない。

「一石でいくつもの鳥を落とすようなものだ。そういうビジネスモデルを組むことが大事だ。循環型ビジネスでは多くの場合、そうしたビジネスモデルを組むことができる」とフォス氏は語る。結果として、関与者が積極的にココパレットを周囲に紹介してくれている。

SDGs へのインパクト

- 「500 万個/年」の自然素材パレット製造により「50 万本/年」相当の森林資源を保護。
- 廃棄されていた「1 億個/年」のヤシ殻を資源として再利用。
- ココナッツ農家に、合わせて「およそ 500 万ドル/年」相当の収入を創出

国際機関・ドナーとの連携

- ワーゲニンゲン大学（オランダ）と技術面で協力しており、同大学において開発された技術をもとに事業展開している。

SDG ビジネス 起業家の言葉

東南アジアの国々は毎年、10 億個以上の木製パレットを製造している。材料となる針葉樹は熱帯には生育していないから、木材をカナダ、ニュージーランド、東欧などから大規模に輸入している。いくつもの森が丸ごと、木製パレットを作るために輸入され、そしてアメリカやヨーロッパに輸出されていく。それならば、現地の資源で作る術を見つけた方が明らかに効率的だ。

マイケル・フォス
Coco Pallet 創業者